

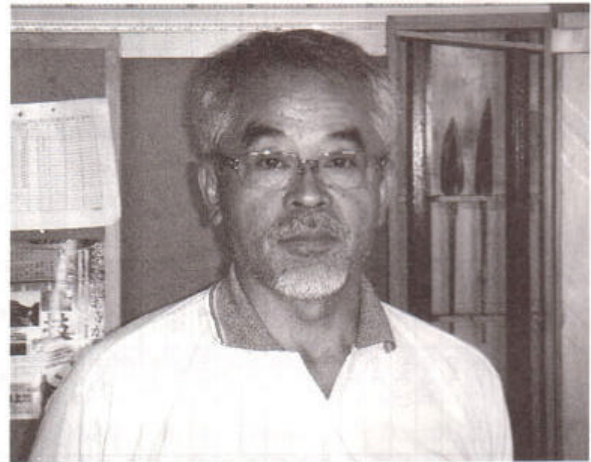


## Data

(TDB企業コード: 261133054)

**番匠井上 有限会社**

所在地 山武郡大網白里町木崎702-3  
 代表者 井上 登志雄氏(昭和25年3月生)  
 電話番号 0475-73-5535  
 設立 2004年(平成16年)10月  
 資本金 300万円  
 業種 神社・仏閣などの建築工事や  
 文化財建造物保存の修理工事  
 (URL) <http://www.banjo-jisha.co.jp>



代表取締役社長 井上 登志雄氏

## 日本の伝統文化である社寺建築を 後世に残す橋渡し

木造建築物の建築・修理を行う職人を大工と呼ぶが、作業内容や建造物により、大工の分類が異なってくる。一般的な木造住宅は「家屋大工」、茶室風を取り入れて家屋を造る「数寄屋大工」、住宅の内部の造作を行うのが「造作大工」、障子や襖などは「建具大工」、家具は「家具大工」、木造船の建造は「船大工」である。今回ご紹介する企業は、神社・仏閣の建造などを行う「宮大工」で、受け継がれてきた日本独自の伝統文化である社寺建築の完成された技術を守り続けている、番匠井上有限会社である。

— 御社の事業内容を教えてください

「社寺堂塔・城の建築工事や文化財建造物を保存するための修理工事です。指定文化財の修理としては、台東区上野の寛永寺清水堂、匝瑳市の飯高寺、市原市の上総国分尼寺など、文化財以外では旭市の海宝寺山門、静岡の吉永八幡宮、港区の麻布山善福寺などがあります。また、立

像の保存修理も行っています。伝統的な建築物の屋根や柱、梁などは複雑な形や曲線が多く、修理には高度な技術が必要です」

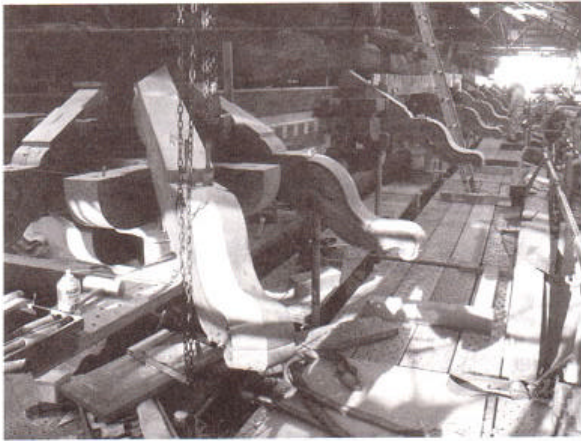
— 日本伝統建築技術保存会の会員ですが、どのような組織ですか？

「日本の木造建築技術は、千数百年の昔より受け継がれてきました。その伝統技術を受け継いだ私たちが、次世代に継承していくことが重要です。技術の保存・継承を計ると共に、後継者の育成を目的としています。現在の正会員は74社で、文化財建造物木工技能者に認定されているのは、千葉県で当社を含めて2～3社です」

— 社長は創業者ですが、宮大工に進んだ経緯を教えてください

「工務店に勤務し、戸建住宅の大工を続けてきましたが、ある仏教の本に巡り会ったことで、仏教に関心を持つようになりました。そのため





神社・仏閣などに関わる宮大工への道に進みました。どこかで修業をした訳ではなく、1994年（平成6年）に独立して創業した時には神社の修理を受けていたので、そこから独学で技術を身に付けてきました」

— 宮大工は渡り大工と呼ばれるように、現場を渡り歩きますが、営業はどうしていますか？

「創業以来、営業らしいことはしたことがありません。大工出身なので人脈がありましたし、宮大工の継承者は減少しており、狭い業界ですので住職や檀家、施工業者からの紹介があります。今は施工期間1年半の現場が茨城県にあり、さらに神奈川県内の案件を見積もりしています。先日は、同じ宗派の住職が近所の現場を見て、曲線が気に入ったとのことで仕事の依頼がありました。最初は改修の予定でしたが、結局、新築となりました」

— 文化財の保存修理は、特に気を遣うのではないですか？

「解体するときは部材を傷めないように慎重に行っています。パールで釘を抜くときも、木に傷をつけないようにしなければいけません。また、出来るだけ部材を残すようにしています。解体には図面を起し、写真を撮り、解体番付を打って、同じように戻していきます。文化財でなければ住職に相談して、松材は腐るので檜に代えさせてもらったりしますが、国指定の文化財ですと同じ部材を使わなければいけません」

— 宮大工は施工が長期なので、現場数が少なく、後継者の育成には苦労すると思いますが？

「規格化された戸建住宅などと違って、同じ仕

事をするのが少なく、覚えたことも次の現場で活かさないこともあります。そのため、技術を修得するまでには、かなりの年数を要します。

マニュアルなどはなく、経験の中で覚えて行かなくてはいけないので、他の業種よりも修行は厳しいですが、当社の場合、脱落して辞めていった者はいません」

— 宮大工としてのこだわりがありますか？

「今は5寸から7寸の角柱が使われますが、当社は最低8寸を使わせて頂いています。そうでなければ建物は持ちません。今、地震で崩壊している寺などは戦後に建てられた柱の細い建物です。今も瓦工事業者からの紹介で、奈良県内のお寺の見積もりが来ていますが、図面は5寸です。さらに、今は設計の関係などもあり、材料を乾燥させる期間が短いです。日本の木ですと切る時期があります。10月から3月の彼岸前です。今頃、切った木は水を吸い上げてますから、倒しても割れる原因になる、腐れが早い、木の艶もないので、発注時期に理解を示してくれるとありがたいです」

— 今後の抱負を教えてください

「形の良い建物、丈夫な建物、長く持つ建物を造ることを、常に念頭に置いています。丸柱は図面より1割太くしています。利益よりも建物のバランスです。解体修理していると、前任の宮大工の強い所と弱い所が良く分かります。今後も、完成された大切な技術を守り続けてきた宮大工という仕事に誇りと自覚を持ち、自らも精進し鍛え、大切な浄財から堅固で美しい伝統建築を数多く残せるよう、お手伝いをさせて頂きたいと思います」



SPOT LIGHT

